

東日本大震災医療支援活動について 「北部体育館での医療活動に参加して」

長岡市・田辺医院

田 辺 一 彦

はじめに東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は長岡でも強い揺れが感じられました。その後に見たテレビで津波の映像がながれるとこの世のものとも思えず愕然としました。大学の部活の後輩が福島県原発近くの富岡で病院をやっており、大丈夫か心配でした。その後も数日間は彼と連絡が取れない状態が続きましたが、2週間くらいたってから無事が確認されほっとしました。

さて、本題に入りますが、3月20日に医師会より福島県相馬より北部体育館に大勢の方が避難してきているとの連絡を頂き、20日と21日に北部体育館に出かけました。体育館では本部に市役所の方が陣取り、ボランティアによる炊き出しがすでに始まっておりました。担当の方に連絡すると具合の悪い方を連れてきてくれるとのこと、医療相談的なものが始まりました。避難してきた方はみなさん着の身着のまま避難してきており、ほとんどの方が数日分の薬しか持っておらず、薬剤情報の用紙を持っている方はほとんどおりませんでした。みせてもらう薬もジェネリックの薬が多く、薬の本がないと何の薬かわからない状態で薬の内容が判明するのに少し時間を要しました。とりあえず今日、明日で薬がなくなる方は休日診療所に行って頂くこととして、市の職員の方に移送をお願いしました。休日診療所の当番の先生は大変だろうなと思いましたが、他に薬を出す手段が

なく、休日診療所の担当の先生にお詫び申し上げます。まだ数日薬に余裕のある方は病状を確認して、病院に行って頂く方、診療所に行って頂く方、またインスリン注射などを行っている方はその専門の先生にお願いするといった、翌週の受診、受診先、受診日をコーディネートするような状況になりました。1日目は相談も多くはなかったのですが、2日目にはいつ終わるかわからない状況となりました。血圧もいつもより高めの方も多く、避難所でパニック発作を起こしている方もおられました。精神科に受診が必要そうな方も数名おられ、内科の病状もあり、受診先については少し苦慮しました。

避難所に行つての問題点、反省点ですが、第一にカルテに相当するものがなく、保健師の方が作っていた用紙にメモ書き程度に記載しましたが、避難者用のカルテに相当するものが必要ではないかと思われまふ。後日、別の医師が見ても病状、内服薬がわかる最低限のものは必要かと考えられます。第二に翌週に各診療所に数名ずつ受診するよう振り分けましたが、自分の医院に4～5名来られた時に自分で病状、薬剤情報を調べていたにもかかわらず、問診や診療にとても時間がかかってしまい大変でした。各診療所の先生方も大変ではなかったかと反省しております。

最後にいつ終わるかわからないような状況になりつつあった時、手伝って頂いた田中医院の田中直行先生に御礼申し上げます。ありがとうございました。